# 2023 新年を迎えて

日本包装管理士会
会長　山田 孝志

明けましておめでとうございます。日本包装管理士会会長の山田孝志です。

新型コロナ禍で迎える新年は今年で3回目になります。どのように過ごされたでしょうか? 第8波のピークが当初は1月の初旬頃と予想されていましたが、早期にピークアウトし始めたので、過去の正月のような行動制限もなく、感染予防して旅行やイベントに出かけた人も多かったことと思います。オミクロン株に有効なワクチンの普及やコロナウイルス治療薬の承認もあり、インフルエンザレベルの防疫体制に移る日もそう遠くはないでしょう。

年末にカタールで行われたサッカーワールドカップの試合では、サポーターがマスクを付けずに応援している様子がTVで映され、海外では平常に戻っていると思った人も多いと思います。経済も戻りつつあり、ウクライナ戦争の余波や原油高からインフレが進み、その抑制で景気の減退が取り沙汰されています。日本も日銀総裁の交代でゼロ金利政策の見直しがあると、急な円安の影響から戻りつつある景気に水を差すことが無ければと心配されているところです。

日本包装管理士会は昨年関東支部が、今年は関西支部が50周年を迎え、半世紀の間、先輩から後輩にバトンを渡しながら会の活動を続けてきました。そして、コロナ禍を機にリアルだけの活動からWEBを併用したハイブリットの活動に移り、一時停滞していた活動も戻りつつあります。これからも変化に対応して進化し続けなければ会の存続はありません。そのためには新陳代謝も必要です。多くの会員に会の運営に携わってもらい、活動をさらに活発にしていきたいと考えていますので、ご理解とご協力をお願いします。

最後に、本年も皆さんと皆さんのご家族と皆さんの会社が発展しますように祈念して新年のご挨拶と致します。

《INDEX》

日本包装管理士会　会長挨拶 ---------- 1
日本包装管理士会選定　2022年包装界・10大ニュース ---------- 2
本部だより ---------- 3,11
支部だより ---------- 4

Institute of Packaging Professionals, Japan

PACKAGING INFORMATION
包装技術者の連携と協力をめざす

日本包装管理士会 会報
No.134

ipp news

ipp news
2023年1月25日発行
編集人／道明　誠
発行／日本包装管理士会
東京都中央区築地4-1-1
TEL 03-3543-9250

# 日本包装管理士会選定　「2022年包装界・10大ニュース」

**1.32年ぶりの円安、包装資材の値上げ**

ウクライナ情勢や日米の金利差が拡大し、円は対ドルで大幅に下落し、一時1ドル＝150円台を超えるまで円安が進んだ。

円安により、コスト上昇に拍車をかけて商品、サービスの値上げラッシュが続いている。段ボール原紙が異例の年2回の値上げのほか、様々な包装資材も値上げとなり、店頭に並ぶ商品値上げの要因となった。

**2.海洋ゴミ削減がプラスチック資源循環促進法に反映される。**

2022年4月に施行した「プラスチック資源循環促進法」により、国際的課題である海洋プラごみ問題に対し、日本においてもプラスチックの使用量削減の動きが加速した。また環境に配慮した商品設計や使用材料の見直しが進み、企業間でのリサイクル技術開発を協働で行う動きも見られた。

**3.DX化の動きが活発化・デジタル印刷用途拡大**

包装を含めた各企業の経営・IT部門、物流業界等では、DX（デジタルトランスフォーメーション：デジタル革新）化が活発化､また経済産業省においても、2025年の崖を克服すべく、DX化を推進している。

一方、巣ごもりによるeコマースの発展を背景に、軟包装の小ロット・多品種化製品への需要が拡大。特にデジタル印刷は、大量需要につながる食品や日用品向けに対応可能なため、期待が集まっている。これまでは殺菌工程が必要な包材に使用制限があったが、デジタル印刷を活用したレトルト殺菌対応パウチが開発され、加熱殺菌が必要な商品に使用可能となり、包装向け用途が拡大されることになった。

**4.プラ包装全廃の動き**

国内で初めて電機製造業大手のS社が商品の包装材でプラスチックを全廃する。

まず2023年度にスマートフォン、オーディオ、カメラなどの小型新商品で始め、外部調達する紙箱に加え竹やサトウキビの繊維などで自社開発した新素材に順次切り替える。将来的にはテレビなど大型商品も含めてプラ使用を取りやめる。国内では脱プラは非製造業を中心に進んできたが製造業にも広がる。環境への姿勢が企業に一段と求められており、代替素材を巡る連携や競争が活発になりそうだ。脱プラスチックの動きは世界的に加速しており、米・A社は25年度までにプラ包装材を全廃する方針、スウェーデン・I社は28年までに包装へのプラ使用を取りやめる。

**5.再生プラスチックの需要増加**

再生プラスチック利用を評価する消費者が増加しているなかで、2022年は再生プラスチックの需要が急速に伸びた。飲料用PETボトルは、水平リサイクルの仕組みが構築され、需要増加に伴って使用済みペットボトルの取引価格が高騰し、新品の樹脂価格を上回るケースが発生。また化粧品、日用品などの容器にも再生樹脂の採用が進み需要が拡大した。大手コンビニではペットボトルのリサイクル状況を消費者が追跡できるサービス実験なども行われた。

**6.製品包装のバイオマス認定化、および包装への表示が進む**

環境問題への対応を推進する各企業において、自社製品包装のバイオマス度を表示する「バイオマスマーク」の取得、およびそれらの表示が進んでいる。サステナブルに積極的に取り組んでいることを示す有力な方策、および指標の一つとして、「バイオマスマーク」が日本企業から重要視されている証拠である。

また、当マークの採用増加は、問題意識の高い消費者に対する自社製品のアピールとともに、特に世界的な投資ファンドや海外の株主から、環境に対する企業としての取り組みに関し、積極的な情報開示が要望されていることなども、理由の1つとして挙げられている。

**7.長方形型マイクロQRコード（rMQRコード）がISO規格を取得**

開発されたrMQRコードは、従来のQRコードでは対応できなかった細長く狭いスペースへの印字に寄与するほか、マイクロQRコードより多くのデータ容量を保持したいというニーズに対応。また、従来のQRコード同様の構成パターンを配置することで高速読み込みを実現する。

このrMQRコードは国際規格（ISO）を取得しており、誰もが自由に安心して使うことができる技術として、電子部品などの限られたスペースへの印字や配置するスペースのデザイン性を損なわない使用といった幅広い分野に貢献する。

**8.「めっちゃかわいい」「おしゃれ」な飲料水入りガラス瓶がSNSで注目を集める**

一部エリアの大手スーパーで販売したスポーツドリンクが、「清涼感あふれすぎる瓶」とネット上で大きな話題を集めた。このドリンクは、リユース可能なガラス製リターナブル瓶入りでロゴは直接印刷、ラベルレス、キャップは栓抜きで開ける王冠を採用。消費者は使用済み瓶を店頭の専用返却ボックスに戻す循環システムでボトル洗浄、充填、再販売が行われる。このガラス瓶を求め他県に出向いて購入する人が続出しSNSでつぶやく姿が報告された。

**9.再生原料不足から包装資材の価格高騰**

使用済みペットボトルの取引価格が高騰し過去最高を更新した。新型コロナウイルス禍の影響で落ち込んだ需要の回復に原油高が重なったためで、飲料メーカー各社はリサイクルボトルの原料確保の苦労に加えて、調達費用の上昇を強いられている。

また、デジタル化などを背景に新聞や雑誌の販売が落ち、古紙の在庫が１～2割弱減って需給逼迫が意識され、2年9か月ぶりの高値をつけた。一方、古紙を主原料とする白板紙の需要は菓子などの土産物や贈答向けが堅調に推移しており、原料不足から生産に影響する可能性が出てきた。

**10.TOKYO PACK 2022 盛況裡に閉幕**

TOKYO PACK 2022が「新時代パッケージ　ここに集う！ 未来のために機能進化と使命」をメインテーマに2022（令和4）年10月12日（水）～14日（金）の3日間、東京ビッグサイト東1～3・東6ホールにて開催された。展示企画では「包装の機能進化と環境問題に対する課題」、「食品ロス、食品廃棄に取り組む包装･物流の使命」､「新時代を見据えた先端技術の活用」、「コロナと共存するためのパッケージ」をテーマに紹介され、ユーザー業界と包装業界が直面する喫緊の課題への具体的なソリューション提案が行われた。また、「プラスチック資源循環促進法」が2022年4月から施行されたこともあり、サステナブルやリサイクルに関する展示が多く見られた。

## 本部だより

# 「2022 東京国際包装展」に出展しました。

事務局　井上 伸也（5期）

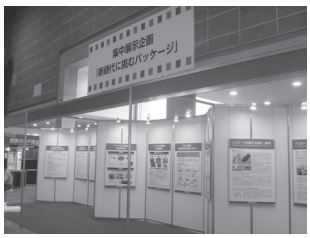
「新時代パッケージここに集う! -未来のために機能進化と使命-」を推奨テーマに「2022東京国際包装展」か2022年10月12日（水）～14日（金）の三日間、東京ビッグサイト東1～3・東6ホールで開催され、IPPは包装四団体と共に主催者の設置する企画展示およびIPPの活動を紹介する小間を東6ホールに出展しました。企画展示では「コロナと共存するためのパッケージ」について企業・団体の協力を得てコロナウイルスとの共存社会における関連包材・包装技法をパネル展示で紹介しました。また、企画展示セミナーにおいて総務（展示会）担当理事の須藤貴行（31期）さんが同テーマで講演して好評を得ました。

個別展示となるIPP小間では「2021年包装界・10大ニュース」で選定した10大ニュースをパネルで紹介するとともに該当商品の展示を行い、本部および関東支部役員が交代で説明員を務め来場者に情報提供を行いました。

主催者からは、期間中の入場者数は167,053人（来場登録者数は53,466人､その内1,000人が海外登録者)、出展社数406社（1,602小間）と報告されました。

企画セミナーにおける須藤理事講演

IPP 小間のパネル展示




包装四団体による集中企画展示

関東支部だより

# 50 KANTO 関東支部 50 周年記念 セミナー企画

## 【第4回】
## UX デザインから探る、包装のこれから

関東支部主催の50周年記念講演会の第４回講演会は、2022年8月26日（金）14：30 ～ 16：00まで開催しました。今回の講演は、ZOOMを使用して行いました。

講師に大日本印刷株式会社 Lifeデザイン事業部イノベーティブ・パッケージングセンター企画本部イノベーティブデザインチームのリーダー　舘野 由紀子さんを迎え、「UXデザインから探る、包装のこれから」についてお話頂きました。当日は25名の参加でした。

UX（ユーザーエクスペリエンス）とは何か。UXとは使いやすさだけでなく、ユーザー体験を統合的にとらえることであり、UXデザインとは、ユーザーが体験するものを考慮し、トータルにデザインすることであること。また、UXデザインを実施する場合には、「時間軸」「環境軸」「人間軸」の3つの視点を総合的に考慮する必要があることを説明して頂きました。

3つのポイント
①機能・性能＜ユーザー体験
②時間軸でとらえる
③ユーザーは変化する。

上記3つのポイントに関して、事例を用いてその必要性を説明してもらいました。UXは、ますます多様化するユーザーの価値観、ライフスタイルの変化に伴い重要であり、時間軸は、ヒトがパッケージに関わる接点として「買う」「護う（しまう）」「使う」「還す」を大日本印刷（株）が開発した「DNPチャック付き紙容器」を事例に説明、人間軸は変化するユーザーから捉えて説明されました。

最後にUXデザインから探る包装のこれからについて、UXデザインの3つのポイントにミクロ視点とマクロ視点を掛け合わせて考えることが大切であることの説明がありました。　（報告者：古平 篤　25期）

## 【第5回】
## 使い捨てプラスチックの削減 Loopの取組み

関東支部主催の50周年記念講演会の第5回講演会は、2022年10月7日（金）14：00 ～ 15：30まで開催しました。今回の講演は、ZOOMを使用して行いました。

講師は、イオンリテール株式会社　MD改革本部商品戦略部マネージャー横田 大輔さんにお願いしました。

「Loop」は米テラサイクル社が国際的に展開している使い捨てごみ削減のプラットフォームで、アジアでは2021年5月にイオンリテール株式会社が初めて導入しました。従来品は使い捨て容器で提供されている食品や日用消耗品を、ガラス瓶やステンレスなど繰り返し使う事が出来る容器で再開発して販売し、空き容器を店頭の回収箱に戻すと容器代が返金され、回収した容器は洗浄後に各メーカーにより再充填されて再度店頭に並ぶ仕組みです。脱プラスチックと循環型社会の実現に向けて日々の買い物の中で消費者の行動変容を促す取り組みであり、2022年12月末の時点では、関東と近畿を中心にイオン・イオンスタイルの86店舗で展開しています。

（この記事は、横田さんのご協力を頂き作成いたしました。ありがとうございます。）

Loop 取り扱い商品

天王町 Loop

**関東支部長の古平 篤（25期）です。**

関東支部が50周年を迎える事ができました。歴代の支部長、理事の方、いままで支えて頂いた会員の方のおかげです。皆さんありがとうございます。関東支部では50周年を記念してセミナーを行っており、6回目までが終了しました。スキルアップセミナーも3回コースで開催中、3回目のセミナーは2月8日です。また皆様に役に立つ見学会なども計画中なので是非ともご参加ください。皆様にはメールなどで連絡させていただきますので宜しくお願い致します。

## 【第6回】ヤマトグループの脱炭素にむけた取り組み

関東支部主催の50周年記念講演会の第6回講演会は、2022年11月22日（ 火 ）14：00 ～ 15：30に てZOOMを使用したオンラインにて行いました。

講師にヤマト運輸株式会社　執行役員　サステナビリティ推進部長である秋山佳子様を迎え、ヤマトグループの「脱炭素に向けた取り組み」についてお話頂きました。

脱炭素の取り組みはESG投資には欠かせないことの説明をされたのち、ヤマトグループが世の中のニーズの変化に合わせて変化してきた内容を説明頂きました。近年のコロナ禍においてもPUDO、EAZY、クロネコスタンドなど次々と新しい取り組みをされています。1919年区域事業から始まり、宅急便時代、2013年には分社化して事業を多方面化。また陸・海・空のスピード輸送ネットワークと高度な付加価値機能を一体化した日本最大級の物流ターミナルとして「羽田クロノゲート」を作り、環境保全、ゼロエミッション、$CO_2$を46％削減など環境視点のはしりであったことなどお話し頂きました。その後、2019年には100年となり、NEXT100として構造改革を掲げ、その一つとして8社統合のワンヤマトとなります。デジタル化、ECエコシステムなど色々な新しい取り組みをお話し頂き、その中でも環境の取り組みとして2030年までにEV車20,000台導入、カートリッジ式バッテリーシステムの開発など、宅配のトップ企業として色々な取り組みをされています。

身近な宅急便の変遷や世の中のニーズの変化に伴う取り組みが色々聞けて、荷物を発送、受け取るだけではない宅急便を知ることができ、有意義なセミナーとなりました。　（報告者：野崎 浩子　38期）

## スキルアップセミナーの開催報告

理事　朝倉 久男

関東支部50周年を記念して今年度は様々なセミナーを実施してきているが、今回、「アドラー心理学の勇気づけリーダーシップ」と題して中小企業診断士（ハリウッド大学院客員教授）の岩井俊憲先生に講演を頂いた。

第1回目は10月26日（火）に開催され、「勇気と希望のアドラー心理学の概要」についての講義であったが、冒頭からグループワークが始まり、グループ討議を通じて以下のリレーションづくり（グループ内での安心感、信頼感、貢献感）を学んだ。

岩井先生の優しい語りから、アドラー心理学の根本にある「勇気づけ」とは何かが、講義の後半には何となく体得できるようになったのは不思議である。

第2回目は、12月14日（水）に「困難を克服する活力を与える勇気づけを指針に」、第3回目は、2月8日（水）に「勇気づけリーダーシップを活かす」と題してお話し頂ける由で、第1回目を受講されなかった方も2回目からの受講で何ら問題ないと。

最終回は講師、受講生を交えた懇談・懇親会を持ちたいとの先生からのご提案も頂いているので、可能な方は是非会場にお越し頂き、リアルでのコミュニケーションを図る絶好の機会と思います。

皆様のご参加をお待ち致します。

## 関西支部だより

関西支部　細田 基則（13期）

新型コロナ禍も3年にわたりますが、各社自制自粛の風潮の中での事業開催を続けています。6月9日の“2021年度／ 2022年度　関西支部　総会”の後で実施した事業内容を報告します。

◆第13回W会との合同研究会　7月28日

〔W会：女性だけの包装研究会〕

「印刷機械メーカーにおけるSDGs」

講師：富士機械工業㈱　開発部長（工学博士）

森川 亮　氏

「SDGs概要と関西SDGsプラットホームの活動について

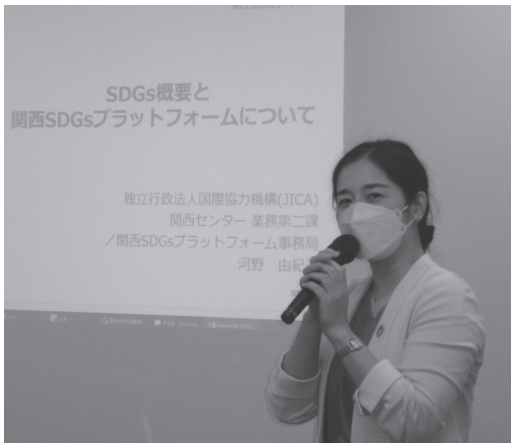
講師：独立行政法人国際協力機構

関西センター開発大学院連携課

主事　河野 由紀子　氏

参加の皆さん

森川講師




河野講師

開会の挨拶・W会遠藤代表

◆ ミニセミナーの開催

◇第47回　10月27日

「速度の劣度を考慮した振動試験方法」

講師：山九㈱ 技術・開発部

中井 太地　氏

「未来人から見た日本の風呂文化とガス機器先端技術」

講師：幸和金属㈱・阪和ホーロー㈱顧問

［元㈱ハーマン取締役］

稲葉 義昭　氏

参加の皆さん

講演風景

右上：中井講師
右横：稲葉講師

---

◆ 見学会＆セミナーの開催　9月28日
①見学会　六甲バター㈱ 神戸工場
②セミナー「包材ロットNo.データ化の取組みについて」
講師：六甲バター㈱ 経営企画部神戸システム課係長　西口 尊之　氏

神戸工場

西口講師

記念撮影

セミナー風景

## 中部支部だより

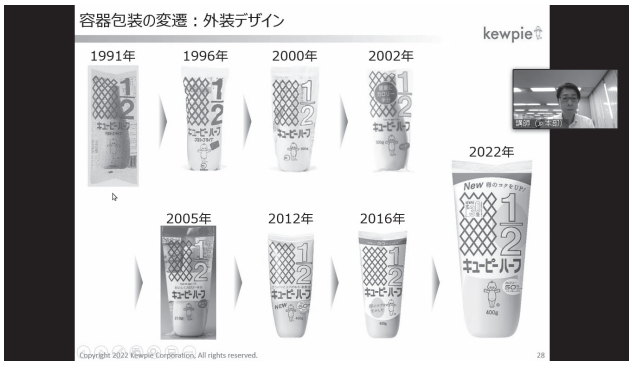
中部支部

2022年度も、引き続きコロナ禍の状況下での事業運営を余儀なくされており、IPP中部支部でも総会や会員交流会、賀詞交歓会等のいわゆる「3密」リスクの避けられない事業については、大変遺憾ながら開催を見送っております。一方で、IPP中部支部では今年度もJPI中部支部と連携し、会員各位への情報提供や研修フォローとなる研究例会の開催について、感染予防に最大限の配慮を尽くしながら、オンライン形式を中心に実施しております。

**【JPIWEBフォーラム】**

IPP中部支部では、昨年度に引き続きJPI中部支部と連携し、「Zoom」を用いたウェビナー（最大定員500名）で実施されている「JPIWEBフォーラム」を共同で開催しております。

7月13日（水）の「JPIWEBフォーラム」では、キユーピー株式会社品質保証本部の和手憲幸氏より『キユーピーハーフ30年の歩み』と題して、時代の変化とともに改良を加えてこられたマヨネーズボトルの歴史と、「キユーピーハーフ」誕生から30年間の歩みについて、それぞれの時代背景を振り返りながらお話しいただきました

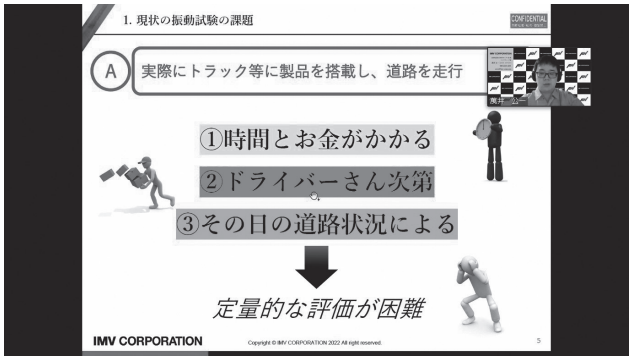



【7月13日（水）「JPIWEBフォーラム」の模様】

8月5日（金）の「JPIWEBフォーラム」では、『お米のプラスチック「ライスレジン」の可能性』と題し、株式会社バイオマスレジンホールディングスのCTO坂口和久氏より、石油由来樹脂の代替や地域循環型資源の有効利用を目指して開発されたコメ由来のバイオマスプラスチック「ライスレジン」について、最新の導入例と今後の取組みを紹介いただきました。

【8月5日（金）「JPIWEBフォーラム」の模様】

11月30日（水）の「JPIWEBフォーラム」では、『現状の振動試験の課題と解決に向けて』と題して、IMV株式会社 技術推進統括本部R&Dセンター部の萬井公一氏より、製品包装の適正評価のための輸送試験における課題や振動試験装置の種類と特長の解説と、そうした課題を解決するために開発された輸送試験用小型振動試験装置m130LSとその活用事例について紹介いただきました。

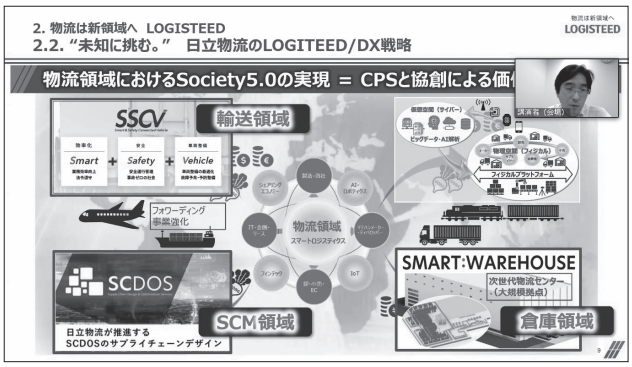


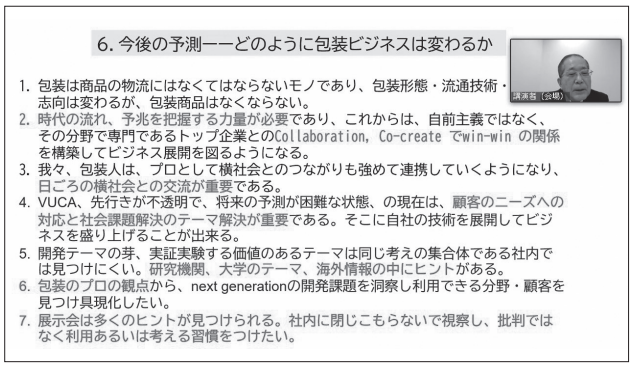

【11月30日（水）「JPIWEBフォーラム」の模様】

**【包装技術講習会】**

11月9日（水）には、「Zoomウェビナー」を利用したオンライン開催にて、JPI中部支部・IPP中部支部のほか、あいち産業科学技術総合センター産業技術センター、愛知工研協会の共催で「包装技術講習会」を実施しました。

はじめの講演では、日立物流株式会社ロジスティクステクノロジー部の金井俊介氏より、混載での海上輸送の積載率向上を目指して取り組んだ『ワンウェイ段積治具の開発』について紹介をいただきました。続いて、住本技術士事務所所長の住本充弘氏が登壇し、Covid-19 Pandemicによってもたらされた包装の重要な機能性や包装に対する考え方の変化と今後の動向等について、国内外の事例を交えて幅広い解説をいただきました。




【11月9日（水）「包装技術講習会」の模様】

## 東北支部だより

東北支部支部長　鈴木 雅彦（23期）

早くも年末を迎えます、東北地方の予報では今年も雪が多い様な気象予報です。12月に入ると一気に冬の気圧配置になるのか心配です。もちろんタイヤ交換は済ませて準備は万端ですが、できれば雪は少ない方がうれしいですね。

さて今年度の前半の活動ですが、やはりコロナ感染拡大が治まらず行事の開催も難しい状況では有りますが、東北支部ではJPIと協賛で今年度も11月7日にWEBフォーラムを開催いたしました。テーマは「2022日本パッケージングコンテスト」入賞作品事例発表を下記の2題行って頂きました。

①『魅せるパッケージで脱プラ達成「クロスでパック」』
　株式会社クラウン・パッケージ
　営業開発部企画開発課課長　清水 美孝氏

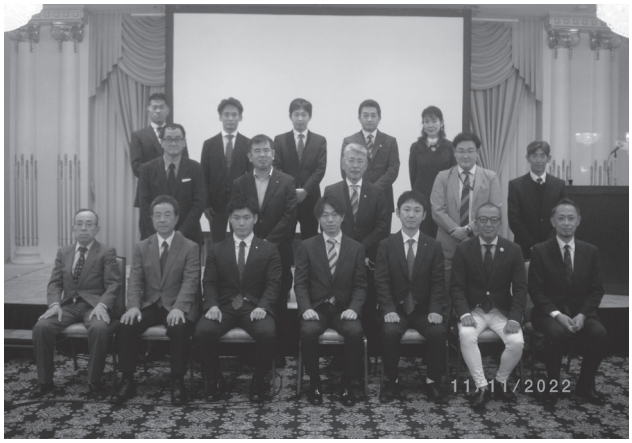
②『リチウムイオン電池100%リサイクルEPS と極限収納』
　SBS 東芝ロジスティクス株式会社
　物流改革推進部　広川 秀美氏

昨年より発表テーマは少なかったが、東京パックに行けなかった方々には、大変参考になりました。

更に11月11日には東北支部恒例の今年度「包装管理士」受講者による包装論文の発表会を、江陽グランドホテルで開催いたしました。4名の方々より発表頂きました。皆さん会社の上司も参加されているので、少し緊張気味でしたが、とても内容のある発表を頂きました。また対面での発表でしたが、1名の方はWebでの発表と成りましたが、これも時代の流れですね大変良かったです。JPIスタッフの方々には大変お世話に成りました。会場からも積極的に質問もあり、とても有意義な発表会と成りました。来年はもっと多くの方に発表頂き、多くの参加者が集まれると嬉しいです。

そして翌週は全日本包装技術発表大会in札幌があり、11月は学びの月でした。

コロナ禍を理由に十分な活動が出来ていませんが、新しい形も取り入れながらIPP東北支部の活動を今後も進めていきたいと考えています。是非企画運営に若い世代の参加を期待して、支部活動報告とさせて頂きます。




包装論文の発表会　記念撮影

## 西日本支部だより

西日本支部 副支部長　末松 洋亮（25期）

西日本支部は会員間の交流の場として、見学会、研究会、講演会などを主体とした活動を進めています。少し緩和の動きは出てきていますが、コロナ禍で活動が制限されているため、対面での開催を避けざるを得ない状況が続いています。このような状況下でも、できる限り充実した事業企画とするため、今年度もJPI西日本支部殿と連携し取り組んでいます。

◆第57期　包装管理士合格者

当支部では28名（生活者コース13名、輸送コース15名）の包装管理士が誕生しました。合格された皆さん、おめでとうございます。

今期もコロナ禍により、残念ながら、合格証書授与式、懇親・交流会は中止しました。合格者の皆さんは残念に感じたであろうと思います。

◆今後の活動予定

JPI西日本支部との共催事業として以下の事業を企画しています。なお今後の状況により、開催方法等を変更することがあります。

①2022 包装事例研究発表会

・日程及び方法：2023年1月末にWEBでの発表を予定

・講演者：第57期包装管理士受講者（優秀論文作成者）及び札幌大会発表者から数名

②2022日本パッケージングコンテスト入賞作品発表会

・日程及び方法：2023年2月中旬にWEBでの発表を予定

・講演者：主に,JPI西日本支部担当地区の会員を予定

*****Eメールアドレス登録のお願い*****

活動によっては、会員の皆様にEメールで連絡を差し上げる機会が多くなっております。
会員の方には必須事項として、連絡用Eメールアドレスの登録をお願いいたしておりますが、まだ未登録な方がおられます。
下記事務局宛Eメール送信で登録をしていただけるようお願いいたします。
e-mail：ipp@pk9.so-net.ne.jp

## 北海道支部だより

北海道支部長　會田 慶太（47期）

新年あけましておめでとうございます。
管理士会会員の皆様におかれましては如何お過ごしだったでしょうか。

2022年を振り返ると、やはり新型コロナウイルスの事が頭に浮かんでしまいます。

昨年同時期に支部だよりの原稿を執筆している際、文末に「アフターコロナ2022」を祈念と書かせて頂きましたが、そんな思いも空しく2022年初めからオミクロン株による第6波に突入、7月以降は第7波と、2021年の感染者数とは比べられない様な拡がりを見せました。そして現在は第8波と戦っております。しかしながら感染者数は増加致しましたが経済活動そのものは止まらなかった為、以前の様な「幸先真っ暗」の感じは薄れたように思います。観光支援を背景に国内の旅行者数の増加、そして少しずつですが海外からの旅行客も入ってきました。北海道はどうしても観光と切り離すことが出来ない地域である為、まだまだ道のりは遠い様に思いますが、アフターコロナに向け1歩動けた様に感じます。

さて、北海道の包装業界の状況ですが、先述の観光客が徐々に回復した事によるお土産関係の需要増、2021年は干ばつで青果物が全体的に収量減となりましたが例年並みへの回復、そして驚いた事に7年ぶりに秋鮭が豊漁となりました。秋の味覚サンマは依然低調ではございましたが、お土産、青果物、水産関係と北海道の主要な需要が回復した年でした。コロナ、コロナと暗いニュースばかりに目がいく毎日でしたが明るい兆しが確かに実感できる年でもありました。

また、ビッグボス新庄でも大いに盛り上がりました。残念ながら最下位でシーズンが終わりましたが、2023年は新球場「エスコンフィールド」が始動致します。今までにない球場の臨場感をコンセプトにしたテーマパークとなります。2022年はビックボス就任で沸き、2023年は新球場で大いに沸くと思います。2023年はアフターコロナに向け2歩、3歩と前進するのではないかと思わせてくれます。昨年同様ダラダラと書いてしまいましたが、最後に2023年を「アフターコロナ2023」となる様、そして会員皆様のご健勝を祈念して締めさせて頂きます。

## 関東支部だより

### IPP写真研究会　活動報告

IPP写真研究会会長 荒牧 哲（23期）

WITHコロナの生活様式が共有され、全国旅行支援が始まったタイミングで、当写真研究会はリアルでの写真展を開催することができました。来場いただいたIPP会員の皆様、ありがとうございました。

展示期間　2022年10月14日（金）正午
～17日（月）午後3時
会場　恒例の横浜山手234番館ギャラリー
作品内容　旅行、紀行、風土記、山、花、鳥など
A3サイズ4枚づつの組写真、計28枚
入場者数　336人（前年は351人とほぼ同数）

写真展開催の2か月前から、写真選び・トリミング・調子調整などをメールで講師に添削指導を受ける機会を2回設け、作品のレベルアップを図りました。

未展示写真も掲載した小冊子「FINDER 愉しい写真展」2022年秋季号を講師に編集印刷いただきました。ご来場いただけなかった方への作品の紹介などに、この小冊子を活用しております。

なお会場撤収後に、当研究会で今年初の懇親会を開きました。

<今後の活動>

リアルでの撮影会、総会兼小写真展をコロナの状況を見ながら開いていきます。

<会員募集>

入会を希望されるIPP会員は、タイトルを「IPP写真研究会入会希望」として関東支部（ipp.kanto.pack.50@gmail.com）へメール下さい。

初日の飾付けメンバー

写真展会場の山手234番館

小冊子「FINDER 愉しい写真展」
2022年秋季号

## 本部だより

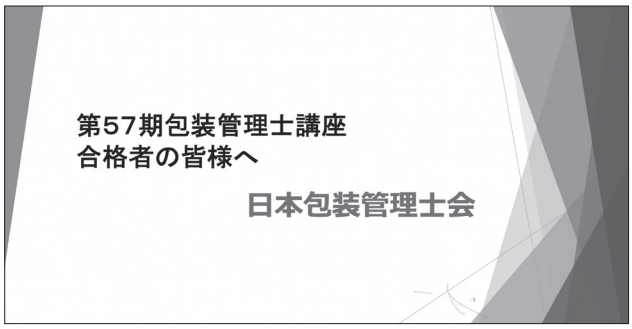
### 57期包装管理士歓迎セミナーを実施しました。

事務局　井上 伸也（5期）

2022年度第57期包装管理士講座に合格された412名の新包装管理士に向けて「57期包装管理士歓迎セミナー」をWeb方式で開催いたしました。

当日は、62名の新管理士に参加していただき、山田会長の歓迎挨拶、古平副会長によるIPP活動のご紹介の後、須藤理事がTOKYO PACK 2022でパネル展示およびセミナー講演を行った「コロナと共存するためのパッケージ」のテーマで講演しました。

歓迎セミナーは受講地別に行われていた合格証書授与式・歓迎式典がコロナ禍で中止されたことを受け、昨年よりIPP本部が実施している行事で2回目となりました。




IPP紹介　古平副会長

歓迎セミナー講演　須藤理事

## 関東支部 忘年会を開催

関東支部長　古平 篤（25期）

関東支部の忘年会を2022年12月8日木曜日の夜、東京・池袋のライオン・池袋西口店で開催し、5人が出席しました。皆さん、久しぶりに会う方が多く、各個人の近況や、今後の関東支部の活動について語り合いました。また歴史談義に花が咲いたのも楽しい時間となりました。普段、WEBでの会議もいいですが、皆さんと顔を合わせてじっくり話す事が重要であるとつくづくと感じました。

## 編集後記

会員の皆様　明けましておめでとうございます。

今年は癸卯（みずのとう）の年。私事ですが昨年、鳥取県にあります白兎神社にお参りしてきました。古事記に記された神話「因幡の白兎」で有名な神社です。皮を剥がされ泣いていたうさぎは、神さまの教えで身体についた塩水を洗い流し痛みを治したそうな。我々も白うさぎの様に、纏わりついた疫病を洗い流せるといいですね。

さて相場の格言で卯年は景気が好転する「卯は跳ねる」と言われ、縁起の良い年として知られています。IPPのつつむ君も、「今年はうさぎの様に元気で張り切って活動していきます！　ぜひTwitter　@IppKantoも見てね！」と、そのように申しておりました。

本年もどうぞよろしくお願いいたします。

道明 誠（23期）


## 日本包装管理士会 / Institute of Packaging Professionals, Japan

*e-mail: ipp@pk9.so-net.ne.jp*
*https://www.ippj.net/*

| | | | |
|---|---|---|---|
| ■本　部 | 〒104-0045 | 東京都中央区築地４－１－１東劇ビル10F<br>日本包装技術協会内 | ☎：03-3543-9250<br>fax：03-3543-8970 |
| ■北海道支部 | 〒060-0001 | 札幌市中央区北一条西２丁目 北海道経済センタービル<br>北海道生産性本部内 | ☎：011-241-8591<br>fax：011-241-3898 |
| ■東北支部 | 〒021-0893 | 岩手県一関市地主町３－35<br>株式会社　東北ウエノ内 | ☎：0191-21-4531<br>fax：0191-21-5381 |
| ■関東支部 | 〒115-0051 | 東京都北区浮間１－７－17<br>※古平 篤 関東支部長宅 | ipp.kanto.pack.50@gmail.com |
| ■中部支部 | 〒460-0003 | 名古屋市中区錦３－５－21 錦HOTEIビル 3D<br>日本包装技術協会内 | ☎：052-228-2930<br>fax：052-228-2980 |
| ■関西支部 | 〒550-0014 | 大阪市西区北堀江１－１－27 イマイビル４階 | 携帯：090-4305-3906（桃川）<br>fax：06-6584-8986 |
| ■西日本支部 | 〒849-0921 | 佐賀県佐賀市高木瀬西６－３－２<br>株式会社　サガシキ内 | 携帯：090-9876-7832 |


Copy & FAX 用切取線

### 日本包装管理士会会員登録データ変更届

■宛先　日本包装管理士会事務局　ｆａｘ：０３－３５４３－８９７０　☎：０３－３５４３－９２５０

| | | |
|---|---|---|
| フリガナ<br>氏　名 | 会員番号　　番　令和　　年　　月　　日届 | |
| 会社 | 社　名 | |
| | 所　属 | |
| | 住　所　〒 | |
| | ＴＥＬ | ＦＡＸ |
| | Ｅ－mail | |
| 自宅 | 住　所　〒 | |
| | ＴＥＬ | ＦＡＸ |
| | Ｅ－mail | |